

雪どけ時期の山地災害に 注意しましょう

春が近づくと気温が上がり、日差しも強くなるため、雪どけが進んで地すべりや斜面崩壊といった山地災害のリスクが高まります。これは、雪どけ水が地面にしみ込み、地下水位を押し上げることで斜面が不安定になるためです。その影響で、雨が降っていないだけでも山地災害が起こることがあります。1997年5月、秋田県の澄川温泉では、雪どけが原因で大規模な地すべりが発生し、近くの温泉施設が大きな被害を受けました。雪どけによる山地災害の予測はまだ難しく、適切な防災対策を講じる上で、重要な課題となっています。

最近の研究では、フェーン現象（山を越えて暖かくて乾いた風が吹く現象）が発生すると、雪どけが急速に進み、山地災害のリスクがさらに高まることが分かっています。また、雪の少ない地域でも注意が必要です。春に特有の日中の暖かさと夜間の冷え込みにより、地表の土が凍結と融解を繰り返すと、地面がゆるみ、斜面崩壊や落石が起きやすくなります。

雪どけが進むこの時期は、最新の防災情報をチェックするとともに、斜面のひび割れや水のしみ出しなど災害発生の予兆がないか注意しましょう。



雪どけによって発生した
1997年5月の秋田県澄川温泉の地すべり

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。